

第5・6回白石記念講座開催案内

石油の掘削・輸送・貯蔵技術の進歩

主催 日本鉄鋼協会

大阪会場が変更されましたのでご注意ください！

大阪における会場は去る4月4日の大阪科学技術センターの火災によりロイヤル NCB 会館に変更し開催いたします。

第5・6回白石記念講座を下記により開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内申し上げます。

白石記念講座は日本鋼管株式会社から同社が昭和57年6月創立70周年を迎え、初代社長故白石元治郎氏を記念して本会へ寄贈されました資金により、本会事業の一つとして白石記念講座を開催しております。

講座内容は、鉄鋼業の進歩に貢献する関連技術の中からテーマを選び、鉄鋼業ならびにそれに関係する方々の知識の向上啓蒙をはかることを目的として、年2回の規模で開催いたすことになっております。

I 日時 第5回 昭和59年6月7日(木)

大阪 ロイヤル NCB 会館 (大阪市北区中之島 6-2-27 中之島センタービル TEL 06-443-2251)

第6回 昭和59年6月12日(火)

東京 経団連会館 10階 1001号室 (千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-1411)

II 演題ならびに講演者

10:00~12:00 海洋における油井の掘削技術の進歩

日本海洋掘削(株)新海洋掘削装置建造室長 相沢 貞道

13:00~15:00 パイプライン輸送技術の進歩

エヌケーエンジニアリング(株)顧問 山下多賀雄

15:10~17:10 石油貯蔵技術の進歩

石川島播磨重工業(株)タンク設計部長 関口 正敏

III 講演内容

1) 海洋における油井の掘削技術の進歩 相沢 貞道

現在、世界の石油の需給は一応安定し、むしろ過剰気味でさえあるが、中東における絶えざる国際紛争は今なお無気味さはらんでおり、今後の石油事情の見通しに一抹の影を落している。このような状況の下に各国はオペック依存からの脱却を図って自国のテリトリー内での石油資源の探査開発に依然根強い動きをしており、特に最近ではその重点を対象の大きい海洋に置きつつある。またその方向も北海や北極海等の悪環境の海域にも向けられ始めた。こうした背景の推移に伴い、必然的に油井の掘削技術にもより効率的でしかも安全に、より深く更に大水深に、より厳しい気象、海象条件にも耐えられるように、とその進歩発展が強く要求されており、これに対応するべく、近年掘削リグの性能向上を含む掘削技術のレベルアップは特に大水深での石油開発の面で著しいものがある。また一方ここ4~5年間の掘削リグの数量の増加も目を見はるほどであり、造船所を始め関連機器メーカー業界の層も一段と厚みを増した。従って今後ますます企業間の機種改良や新開発の競争が激しくなるであろう。またこれによる掘削技術の進歩もいつそ期待できる。

2) パイプライン輸送技術の進歩 山下多賀雄

パイプラインによる危険物流体の輸送が、米国で始められてから約100年の間に異常な進歩発達を遂げ、現在世界各国においてエネルギー輸送の主体をなしていることは衆知の事実である。しかし、パイプライン輸送技術の進歩発達の歴史を顧みると、各時代ごとにそれを招来するための要因ないしインパクトが存在していたことが分かる。このようなパイプライン輸送技術の進歩発達の歴史とその要因との関連について概説するとともに、将来の展望等について述べる。

3) 石油貯蔵技術の進歩 関口 正敏

近年、大型石油貯槽の安全性が社会的問題として、注目を浴び、安全、防災対策上の規則が強化されてきた。今後一部のタンクは、従来と異なつた構造となることも考えられるが、経済の見地より、大部分は、やはり、従来どおりの地上タンク形式のものであろう。

そこで主として地上タンクの形式、使用材料、構造及び石油基地について述べ、今後の石油タンクは、いかにあるべきか、安全、防災面からも述べてみたい。

IV 聴講無料 (事前の申し込み不要)

V 資料代 1,000円 (予定)

VI 問合せ先 〒100 千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021